

8 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和7年7月31日（木）
- 2 開 催 場 所 市役所新館 9階 191 会議室
- 3 出席した委員 小南教育長、溝口委員、播委員、土屋委員、小林委員
- 4 出席した職員 鹿間教育総務部長、松尾教育指導部長、
鷹津教育総務部次長、藤原教育指導部次長、
尾崎教育指導部学校教育担当参事、
井上教育指導部部活動地域展開推進担当参事、
今津教育指導部教育支援推進担当参事、
真鍋教育指導部ダイバーシティ教育推進担当参事、
福本教育総務課長、大崎学務課長、岡本社会教育課長、
岡本学校教育課長、岡本教育支援課長、
窪田教育総務課副課長、竹内教育総務課管理調整係長

5 傍 聴 者 なし

6 議 事 の 要 旨

○ 開 会 午後1時55分

○ 会議録署名委員指名のこと
播委員に決定

○ 7月定例教育委員会の会議録報告承認のこと
（事務局より会議録朗読報告）
承認

○ 会議公開の可否決定のこと

協議事項1「令和7年度9月補正予算に係る意見について」、協議事項2「加古川市立公民館の設置及び管理に関する条例の改正に係る意見について」、協議事項4「加古川市における学びの多様化学校設置に関する基本方針（案）について」は、非公開とすることに決定

(協議事項)

- 3 令和8年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について
(教育指導部参事から説明)
原案可決

委 員 : 令和6年度に教科書が変わったことで、教員からネガティブな意見は出ていないか。

事 務 局 : 変更に伴って慣れる必要が生じているが、不便等の意見はない。

委 員 : 大きく変わった数学も問題ないか。

事 務 局 : 指導の順序が変わっているが、使いにくい等の意見はない。

- 次期定例教育委員会予定日のこと
9月11日(木)午後2時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

- (1) ブラジル・マリンガ市への青年海外派遣団について

8月5日(火)から8月15日(金)まで、青年海外派遣団の団長としてブラジル・マリンガ市を訪問する。

派遣団は社会人2人、大学生2人、高校生3人の計7人である。なお、高校生のうち1人が男性で、ほか6人は女性であり、女性の方が積極的に応募されている。

- (2) 鎌倉市立由比ガ浜中学校(学びの多様化学校)の視察について

鎌倉市立由比ガ浜中学校(学びの多様化学校)の視察を行った。

同校の取組は学校というものに関する固定観念を取り払い、子どものための新しい施設を作り出すようなもので、非常に印象的であった。

- (3) 掛川市教育委員会の視察について

掛川市教育委員会の部活動地域展開にかかる取組の視察を行った。

掛川市は令和8年度から部活動地域展開を開始するために、令和3年度から準備を着実に進めていた。

○ 教育委員諸報告

[土屋委員から]

- (1) 鎌倉市立由比ガ浜中学校(学びの多様化学校)の視察について

鎌倉市立由比ガ浜中学校(学びの多様化学校)の視察を行った。

視察の中で「自分らしく学び、自分らしく成長する」「子どもたちを信用する」「登校すればそこで100点」等のキーワードに出会った。これらのキーワードは全ての子どもたちに当てはまることだと思う。自分で考える力が求められている時代だが、

教員の方々には教えやすい方法ではなく、子どもたちに合った教育に尽力していただきたい。

(2) 掛川市教育委員会の視察について

掛川市教育委員会の部活動地域展開にかかる取組の視察を行った。

掛川市の方々の視察の対応が非常に丁寧で驚いた。多くの自治体等の視察を受け入れている中で、親切に説明していただけることは素晴らしいことだと思う。加古川市も視察を受け入れる際には是非同様の対応をお願いしたい。

視察の内容では「対価を求めないといけない。対価を求めるから持続できる。」との心構えが最も印象に残っている。

〔播委員から〕

(1) 鎌倉市立由比ガ浜中学校（学びの多様化学校）の視察について

鎌倉市立由比ガ浜中学校（学びの多様化学校）の視察を行った。

視察を経て、改めてインクルーシブ教育のすばらしさを知ると同時に、教員のマンパワーが求められることを感じた。個性的な子どもが多いことに加え、その保護者と関わることも必要となる。学びの多様化学校を創るとなると相当の覚悟が求められる。

しかし、そこで学ぶ子どもたちの「ここがあるから自分の居場所がある。」といった声を聞くと、それだけの価値があるものだと感じた。

(2) 播磨東地区教育委員会連合会研修会の講演について

播磨東地区教育委員会連合会研修会で、梶山女学園大学の山田真紀教授による「子ども達が自分でつかむ自分の未来 ～特別活動で「生きる力」の基盤となる非認知能力を育てよう～」と題した講演を聴いた。子どもたちとの対話の中でお互いに高めあっていくといった内容だった。

特別活動は非認知能力の向上に非常に効果的とし、具体例として東京都の八王子市立式分方小学校の例を取り上げられた。荒れていたその学校は、異動してきた校長先生が特別活動に力を入れた結果、数年で学校の状況に大きな改善が見られたというものだった。その中で実際の映像があり、緊張のあまり過呼吸となっている児童等、気になるシーンもあったが、総じて素晴らしい取組であった。

〔溝口委員から〕

(1) 鎌倉市立由比ガ浜中学校（学びの多様化学校）の視察について

鎌倉市立由比ガ浜中学校（学びの多様化学校）の視察を行った。

教員の方々が大変な中で一生懸命に工夫をしながら取り組んでおられた。学びの多様化学校は非常に意義があるものだが、教員の頑張りにかかっているものである。

(2) 掛川市教育委員会の視察について

掛川市教育委員会の部活動地域展開にかかる取組の視察を行った。

行政の取組の結果、部活動地域展開に参加意思のある団体が非常に増えている点

が印象的だった。

掛川市は取組の最初につまずいたが、その失敗を活かし、立て直したとのことだった。行政は成果を求められるが、加古川市も歯を食いしばって頑張ってもらいたい。

非常に大事と言われる特別活動の大きな部分を占める部活動が学校教育から無くなった後に、特別活動の充実・教育的意義を保障していくことが課題と感じている。

〔小林委員から〕

(1) 夏休み中の地域のラジオ体操について

夏休みに入ったが、自分が小さい頃に毎日参加していたラジオ体操が、今住んでいる地域では子どものラジオ体操が行われておらず、衝撃を受けている。

実施について地域によって差があるとのことだが、夏休みのラジオ体操が改めて広がると良いと思う。

(2) 今後の部活動の在り方について

学生時代の部活動の仲間と集まる機会があった。当時の成績に関わらず、今でも仲の良いグループが続いている。トップを目指さなくても良い・楽しく取り組もうという姿勢が許されていた部活動だった。

これから部活動地域展開が進んでいくが、競技性だけではなく、一緒に取り組んでかけがえのない仲間を得られる、みんなが取り組みやすい部活動になると良いと思う。

○ 教育指導部長諸報告

(1) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

4月17日に実施した令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要や、昨年度からの変更点について説明した。

委 員 : 学校規模と成績の相関関係はあるのか。

事 務 局 : その点は注目しているが、年度ごとの子どもの入れ替わりによって成績が大きく変動することもあり得る。個別最適な学習の観点から検証し、今後の教育に繋げていきたい。

教 育 長 : 中学生の数学の正答率が低く、理数嫌いの子どもへの対応が求められている。

(2) 第32回加古川市中学生海外派遣について

8月13日(水)から8月22日(金)まで、ニュージーランドの姉妹都市であるオークランド市に、中学生を10名派遣することを報告した。

委 員 : 派遣する子どもたちは英語のレベルで選考しているのか。意欲等も

加味されているのか。

事務局：英語の能力は様々で、論文や面接も含めて総合的に判断している。
ホームステイを見据えて協調性も意識して選考した。
英語に自信がない子もいるが、派遣で多くのことを学び、その経験を加古川市に還元できるようにチャレンジしている。

(3)「心の絆プロジェクト」代表者ミーティングについて

「心の絆プロジェクト」代表者ミーティングを8月20日(水)にSHOWAグループ市民会館小ホールにおいて開催することを報告した。

以上、3件について報告

○ 閉 会 午後3時10分